

自分だけの視写本作りをする活動を通して、登場人物の行動を中心に場面の様子について想像を広げながら読む力をつける。

第1学年1組 国語科学習指導案

指導者 山中 雅代

1. 単元名 「マイ・スイミーブック」

2. 学習材 『スイミー』（教育出版 ひろがる言葉 1年下）

3. 単元について

(1) 本単元でつきたい力

本単元では、主に小学校学習指導要領・国語〔第1学年及び第2学年〕の「C読むこと」における以下の能力を身に付けさせることをねらいとしている。

C 読むこと	
内容 (1) エ	場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。
カ	文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。
言語活動例 (2) イ	読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。

本単元では、学習材『スイミー』の本文を視写することを通して、『スイミー』の絵本に親しみをもつとともに、手本の文章を正確に書く力を身につける。さらに、場面の様子や、登場人物の行動を読みとる力をつけるために、主人公のスイミーの言葉や想いを吹き出しに書き加えて自分だけの「マイ・スイミーブック」を作成する。これらの学習を通して、場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読む力を養う。

(2) 本単元で行う言語活動

本単元では、『スイミー』の文章表現の特徴や作品の世界を理解させることをねらいとした視写と、主人公スイミーの行動や言葉を想像して吹き出しに書いたり、最後に続き話を書き加えたりして、自分だけのオリジナル絵本を作る活動を行う。この活動は、小学校学習指導要領・国語〔第1学年及び第2学年〕の「B書くこと」における言語活動例(2)ウ「簡単な物語を作るなど、感じたことや想像したことを書く活動」と、「C読むこと」における言語活動例(2)イ「読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動」をふまえている。

(3) 学習材について

『スイミー』の構成及び内容 場面の○数字は、ワークシートの番号

構 成	場面	あ ら す じ
〔前話〕 はじめ ～ P 6 6 . L 5	①	○広い海のどこかに仲間とともに楽しく暮らす魚達。 ・カラス貝よりも真っ黒で、泳ぐのは誰よりも速いのが「スイミー」。
〔中話〕 P 6 8 . L 1 ～ P 6 9 . L 2 P 7 0 . L 1 ～ P 7 0 . L 5	②	○ある日、お腹を空かせた恐ろしいマグロがスイミー達の群れに突っ込んできた。小さな魚達は一口で飲み込まれるが、唯一逃げられたのはスイミーだけだった。
----- P 7 1 . L 1 ～ P 7 5 . L 4 P 7 6 . L 1 ～	③ ④ ⑤ ⑥	○一人ぼっちのスイミーは、仲間を失った寂しさと悲しさで海の底を泳ぐ。 ○海の中での素晴らしい物との出会いによって元気を取り戻していくスイミー。 ○スイミーの兄弟とそっくりの小さな魚達との出会い。

P 7 9 . L 5	⑦	・ 外の世界を見せたいスイミーと岩陰に隠れる仲間達。
	⑧	・ 外に出ていく方法をいろいろ考えるスイミー。
〔後話〕 P 7 9 . L 7 ～ P 7 9 . L 1 0	⑨	○朝の冷たい水の中を、昼の輝く光の中をみんなで泳ぎ大きな魚を追 い出す。

本学習材『スイミー』は、絵本作家のレオ＝レオニ氏『スイミー ーちいさな かしこい さかなのはなし』（谷川俊太郎氏訳・1969年「好学社」）からの出典である。

物語は、中心人物である「スイミー」の紹介から始まっている。赤い魚の中で一匹だけ真っ黒で誰よりも泳ぐのが速いスイミー。ある日、マグロの襲撃を受け兄弟達は食べられてしまった。一人ぼっちになり絶望の中、海の底を泳ぐスイミー。しかし、海の中の生き物との出会いによってしだいに元気と生きる喜びを取り戻していく。スイミーの気持ちが変わっていく大切な場面である。そして、岩陰で隠れて暮らす自分の兄弟とそっくりな赤い魚達を見つける。この新しい兄弟達に自分が見た素晴らしい海の生き物たちを教えたい、一緒に楽しく生活をしたいと望むスイミー。知恵を絞って大きな魚に食べられない方法を一生懸命に考えた。「そうだ。」最高の方法を思いついたスイミー。みんなで協力して離ればなれにならずに、一匹の大きな魚のふりをして泳げるように仲間達を率いるスイミー。真っ黒なスイミーが目になり、大きなマグロを追いついに成功する。

この物語は、起承転結がはっきりしているので場面の様子をとりえやすく、中心人物であるスイミーの行動や会話に着目しながら読み進めていくことができる。一文が短く、言葉の響きやリズムがよいので語句のまとまりがとりえやすく、一年生の音読にも適している。これは、比喩表現や体言止め、倒置法などのさまざまなレトリックの効果といえる。「カラス貝よりも真っ黒」なスイミーや、「ミサイルみたいに突っ込んできた」マグロの襲撃の様子を捉えることができる。「虹色のゼリーのようなくらげ」「水中ブルドーザーみたいないせえび」「ドロップみたいな岩」などの比喩表現で、海の中で出会った「すばらしい物」の魅力を読み手に想像させる。また、「スイミーはおよいだ。くらいうみのそこを。」などの倒置法を使ったり、「スイミーはかんがえた。いろいろかんがえた。うんとかんがえた。」など文を繰り返したりすることで、スイミーの行動や心情が強調されお話の世界に自然に引き込まれていく作品であると考えられる。

（４）子どもの実態（男子14名 女子12名 計26名）

本学級の子どもたちは、入学してから教科書教材のみならず、読書タイムや読み聞かせでさまざまな物語に触れている。登場人物がどんな行動をし、どんなことを話しているのかを追いながら、場面の様子を自分なりに想像し、物語を読み進めることを楽しんでいる。

1学期には、『けむりのきしゃ』の視写絵本作りを行った。場面ごとのワークシートを用意し、お手本を見ながら本文を視写した。おじいさんの絵に吹き出しがあり、おじいさんが言ったことや思ったことを想像して書きこんだ。最後に、おじいさんか流れ星かを選び、お手紙を書くことで登場人物の心情を想像した。

『大きなかぶ』では、視写絵本作りを通して人物の登場によって場面が変わることを押さえ、物語の順序をとらえて読むことができた。ワークシートの挿絵に吹き出しをつけて、おじいさんの言葉を想像して書かせると同じお話を読んでいるのに書いてある言葉が違い、いろいろな考えがあることに気づくことができた。「続きの話があるよね。」という言葉が子どもたちから自然に出てきて「続き話」を書き、主体的に学習に取り組む姿が見られた。「うんとこしょ、どっこいしょ。」や「～が～を引っ張って」といった繰り返されるリズムの面白さに合わせて、音読を楽しむ姿も見られた。

『けんかした山』では、山の輪郭だけがあるワークシートを用意し、本文を視写した後、場面ごとに山の表情を描き、山が言ったことや思ったことを吹き出しに書いた。お話の場面ごとに、「まだけんかをしているね。」「雨が降って火が消えて、悲しそうだよ。」など想像をしていた。さらに二つの山がけんかを終えてから緑につつまれるまで時間がかかったことを知ると「間の話がある。」「書きたい。」と意欲を表し、「間話」を文章に表す活動を行った。

物語についての視写本作りは子どもたちが大好きな活動で、とても意欲的に行うが、文章を想像して書く時に、語彙が不足していて上手く文に表せない子がいたり、文字の習熟ができていない子が3名いたりする。文字を薄く書いたなぞり書き用のワークシートを用意したり、吹き出しに書き

たいことを言葉で言わせたり、何をしているのかななどを指導者が聞いたりして、支援しながら学習を進めたい。

物語文の学習活動に視写本作りを継続することで、子どもたちはいろいろな文章表現に触れることができ、読書の楽しさを感じることができ、読書の楽しさにつなげることができると考える。

(5) 指導観

〔見出す〕

□本時（本単元）の目標（めあて・ねらい）を明確にする。

①関心・意欲を高め主体的に学習に取り組ませるために、単元のゴールを示し学習の見通しをもたせる。

第一次では、教師が作成した「マイ・スイミーブック」を提示し、子どもたちに「マイ・スイミーブック」を作りたいという意欲をもたせる。教師モデルの良さを見つけながらそれを作るにはどんな学習が必要なのかを考えさせ、単元の見通しをもたせる。

子どもたちは、1学期に2冊、9月に2冊と視写本を作成している。この「出版学習」には、低学年でも意欲的に取り組む子が多い。今回も教師が作成した「マイ・スイミーブック」の読み聞かせを行い、『スイミー』と出合わせ、自分も視写絵本を作りたいと意欲をもたせていく。子どもに見通しをもたせるために、どのような学習をしたら「マイ・スイミーブック」を作ることができるのかを確認し、単元計画と一緒に立案していく。

〔自分で取り組む〕

□児童が「見方・考え方」を働かせながら課題に取り組むことができるように、取り組むときの視点や思考の進め方を指導する。

②本文の文章表現や言葉、挿絵から、想像したことを書かせる。

これまでの物語文の視写本作りで行ってきたように、登場人物の思いや言葉を想像して「吹き出し」に書いていく。『けんかした山』では、2色の用紙に「吹き出し」を書いた。子どもたちは、「ピンクはふわふわ言葉」、「水色はけんかしているからチクチク言葉」など色の違いに気づき、用紙を選んでいく。今回も「楽しい・嬉しい」時はピンク色、「悲しい・寂しい」時は水色というように吹き出しの色を変えて教師モデルを作成する。「あれ、色が違う。」「何か意味があるのかな？」という子どもの気づきを大切にしていきたい。他の教師モデルも紹介し、吹き出しの色の違いや共通していることを見つけていくことで、場面の様子やスイミーの心情を捉えられるようにする。「吹き出し」の色を変えるだけでなく、マス目の用紙と、吹き出しの形の用紙を準備して子どもたちが場面や書きたい文にあった用紙を選べるようにして意欲的に取り組めるようにする。

〔自分で取り組む〕

□児童が自分の考えを形成したり、想いや考えを基に想像したりする時間を確保する。

③想像したことを紹介したいという思いをもたせ、主体的に書かせていく。

今回の学習では、場面ごとに視写をして吹き出しを考える時間をとり、全体への発表を行う。吹き出しを考えている子には、机間指導をしながら「どうしてそう書いたのか」を聞き、全体発表へ向けて自分の考えを話せるようにする。視写が苦手な子には、文字を薄く書いたなぞり書きのワークシートを用意し、支援をする。吹き出しを書くことに困っている子には、「スイミーは何をしているのかな？」「どんな様子かな？」など声をかけ、言葉に出させて書けるようにする。

これまでの出版学習で自分だけの本ができあがった喜びは大きかった。ワークシートの登場人物の行動や思いを想像して書いた吹き出しを、学級全体で紹介するだけでも次の場面への意欲につながった。一つ一つ出来上がる喜びを感じさせることで、自分だけの絵本を作りたいという気持ちをもたせていく。

〔広げ深める〕

□児童が多様な考えを理解できるように、互いに学び合う場面を設定する。

④感想を交流し、作品作りの楽しさを味わわせるとともに、自分の文章の内容や表現の良いところを見つけさせる。

教材文を1枚視写するごとに、子どもが考えた吹き出しをタブレットで撮影しモニターに大きく映して紹介しながら、なぜその言葉を書いたのか理由を発表する活動を取り入れる。本文は同じでも想像することが違ったり、自分では考えない言葉を知ったりすることができる。

これまでも作成した視写本を読み合い、友だちの作品の良かったところに付箋を貼る活動をしている。これも子どもたちが大好きな活動である。単元の終わりでは、最後の続き話を読み合う交流を取り入れ、お互いの感想を伝え合うことによって、自分では気づかなかった良いところを知ることができる。友だちに認めてもらったり、楽しかったと思ったりすることは、学習意欲を高めるとともに自己肯定感を高めることにもつながる。出版学習への意欲が増すと考えられる。

4. 単元の目標

【知識・技能】・・・㊟

○登場人物の行動や心情を吹き出しに書くことができる。・・・【2B(2)ウ】

【思考・判断・表現】・・・㊟

○挿絵の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げて『スイミー』を読むことができる。・・・【2C(1)エ】

【主体的に学習に取り組む態度】・・・㊟

○「マイ・スイミーブック」を見通しをもって、粘り強く作成している。

5. 全体指導計画（10時間扱い）

次	時	主な学習活動	○教師の留意点 ☆評価（方法）
第一 次	1	視写絵本を作るという、単元の見通しをもつ。 ・『スイミー』の読み聞かせを聞き、好きなところやおもしろかったところなどの感想を話す。 ・教師のモデルを見て、学習の意欲や見通しをもつ。	○教師の読み聞かせを聞き、物語のおおまかな内容を理解する。 ☆登場人物をとらえることができたか。 (㊟：発言) ○教師が制作したモデルを子どもに見せ、学習の見通しをもたせる。 ☆「マイスイミーブック」を作るという学習の見通しをもてたか。 (㊟：発言)
	2	視写本の作り方を知り、視写をする。 ・場面①の本文を読み、ワークシートに視写をする。 ・場面を想像して挿絵を描く。 ・スイミーの行動や心情を、吹き出し用のシートに書く。 ・吹き出しに書いた言葉について、発表をする。	○視写をするときに留意することを確認する。 ○視写が苦手な子には、なぞり書き用・本文が所々書いてあるワークシートを用意し支援する。 ○吹き出しシートには、スイミーの行動や心情を書くようにさせる。苦手な子にはモデルを見せ、参考にさせる。
第二 次	3	場面②を視写する。 ・本文を読み、マグロの襲撃場面をとらえスイミーの行動や心情を吹き出しに書く。 ・吹き出しに書いた言葉について、発表をする。	○子どもたちの書いた吹き出しを紹介し、書いた理由を発表させ、全体に広め共有しあえるようにする。
	4	場面③を視写する。 ・本文を読み、一人ぼっちの場面をとらえ、スイミーの行動や心情を吹き出しに書く。 ・吹き出しに書いた言葉について、発表をする。	☆「マイ スイミーブック」を作ろうとしているか。(㊟：ワークシート)
	5	場面④・⑤を視写する。 ・本文を読み、海で素晴らしい物と出会っ	☆友達ワークシートや発表を聞き、自

	6	た場面をとらえ、スイミーの行動と心情を吹き出しに書く。 ・吹き出しに書いた言葉について、発表をする。	分の考えの参考になっているか。 (㊤：ワークシート・国語日記)
	7 本 時	場面⑥を視写する。 ・岩陰に隠れる小さな魚達と出会った場面をとらえ、スイミーの行動や心情を吹き出しに書く。 ・吹き出しに書いた言葉について、発表をする。	☆吹き出しにスイミーの行動や心情をとらえた言葉が書けたか。 (㊤：ワークシート・発言)
	8	場面⑦を視写する。 ・みんなで楽しく暮らす方法を考える場面をとらえ、スイミーの行動や心情を吹き出しに書く。 ・吹き出しに書いた言葉について、発表をする。	
	9	場面⑧・⑨を視写する。 ・大きな魚を追い出す方法を考え、協力して泳ぐ場面をとらえ、スイミーの行動や心情を吹き出しに書く。 ・吹き出しに書いた言葉について、発表をする。	
	10	続き話を想像し、ワークシートに書く。 ・大きな魚を追い出した後のスイミーや仲間達について、想像してお話を書く。	○その後のスイミーはどうしているかを子どもたちに問いかけ、いろいろな考えを聞くようにする。 ○教師のモデルを紹介し、活動の意欲と見通しをもたせる。 ☆教師のモデルを参考にしたり、友だちの話を聞いて続き話を作ろうとしているか。 (㊤：ワークシート) ☆スイミー達がどうなったのかを考えているか。(㊤：発言・ワークシート)
第 三 次	11	「マイ・スイミーブック」で交流をする。 ・完成した「マイ スイミーブック」をペアで読み、感想を交流する。 ・交流をして心に残った感想を発表したり、視写絵本作りをして楽しかったことや、気づいたことを日記に書く。	○感想は、どんな所がおもしろかったのか具体的に言えるようにする。 ○ペアを作るのに困っている子どもには声をかけ、たくさんの子どもたちと交流ができるようにする。 ☆友達のが作った「マイスイミーブック」を読んでいる。(㊤：様子) ☆友だちの作品の良いところを見つけることができる。(㊤：付箋・発表)

6. 本時の指導（7／11）

（1）目標

- ・視写することを通して、スイミーの行動を中心に場面の様子を想像して吹き出しに書くことができる。
（【思考力・判断力・表現力等】C（1）エ）

（2）展開

時配	学習活動と内容 ◎教師の発問 ・子どもの反応	○留意点 ☆評価（方法）
2	1. 前時までの学習を振り返り、本時の学習課題をつかむ。	○今日の学習の流れを確認する。
	⑥ばめんをししゃして、スイミーのこたばをふきだしにかこう。	
3	2. 『スイミー』を音読する。	○⑥場面の音読をして、視写する文章を確かめられるようにする。
25	3. ⑥場面をつくる。 ◎本文を視写して、スイミーが何をしているか、どんなことを言ったのかを吹き出しに書きましょう。 （1）本文を視写する。 （2）吹き出しを書く。 例 ・僕の兄弟とそっくりだ。 ・うれしいな。一緒に泳ごうよ。 ・海には楽しいものがいっぱいだよ。 ・かくれんぼしよう。 ・ひとりぼっちは、さみしいよ。 （3）場面絵を描く。	○視写する文章が分かるようにモニターに映したり、教師のモデルをみせたり、なぞり書きできるようにしたりして、正しく視写できるようにする。 ○吹き出しシートには、スイミーの行動や心情を書くようにさせ、教師モデルを見せて参考にさせる。 ○場面絵は、スイミーを中心に描くようにさせる。 ○吹き出しの用紙をいくつか用意し、自由に使えるようにする。 ○視写や吹き出しの文章を書き終わったら、必ず読み返し、間違いがないか確認させる。 ○活動が早く終わった子には、①～⑥場面を黙読させる。
12	4. 吹き出しに書いた文を発表する。 ・一緒に遊ぼうよ。 ・海には楽しいものがいっぱいだよ。 見に行こう。	○教科書の挿絵や発表する子の場面絵などをモニターに映し、発表させる。 ☆スイミーが、自分の仲間を見つけた驚きや喜びを捉え、吹き出しを書くことができたか。 （思：ワークシート・発言）
3	5. 全体で学習の振り返りをする。 ◎今日の学習をしてどうでしたか。	○今日の学習で分かったこと、楽しかったことなどを振り返らせる。